

第2回渡嘉敷村観光振興計画策定準備委員会 質疑応答 議事録

【実施日時】2017年7月13日(木) 19:00-21:00

【開催場所】渡嘉敷村役場(大会議室)

【出席者】委員(敬称略)

小嶺哲雄(委員長)、小嶺国土、中馬直樹、国吉晴大、吉崎誠、
金城肇、金城涉、池松来、長谷和典

ライ)：花咲宏基、草間亜沙子、黒岩考自、山岸彩夏

石川)：石川武男(コーディネーター)

JTB : 片瀬泰介

計15名

※計画策定全体における今回検討内容の意義 / 全体スケジュール説明

第1回策定準備委員会の参加者から、昨年と同じ内容の会議内容になっているのではいかという指摘があり、あらためて策定委員会の各会議の討議内容とスケジュールについて説明した。

【説明についての質疑応答】

委員A) まず組織体制について確認したい。親会(策定委員会)と言うものがあると聞いたが、そのメンバーを教えて欲しい。策定委員会のメンバーと準備委員会のメンバーがリンクしていなければ、意見も通らない。環境省の国立公園満喫プロジェクトの際に、同様の2層構造の体制で委員会を作ったが、我々事業者の意見が全く反映されなかった。組織体制自体に問題があると思う。親会のメンバーが、この策定準備委員会の意見について、どういった考えを持っているかを知りたい。

委員長) 色んな職種のメンバーが集まった準備委員会がメインとなって計画書を作り、ここで話し合っていたいただいた内容を、策定委員会という上部会に示す。
メンバーについてはお手元に資料をお配りする。
上部会の意思ということではなく、村が既に示している計画をもとにしていく。

委員A) (策定委員会、策定準備委員会は、)観光協会を立ち上げるための組織じゃないのか。そのように聞いているが。

委員長) この委員会では観光振興計画を策定していく。その中に、観光協会立ち上げについての計画も含まれていく。

委員 C) 組織体制について不安がある。我々準備委員会ではこれだけの熱量を持って議論し進めていくが、上部会である策定委員会がどれだけ我々の動きに注視してくれているかが不安である。どれだけいい計画を作っても、差し戻しになっては困る。

委員 A) そもそも実働部隊の会議をこのように回数を重ねて練っていくのであれば、なぜわざわざ親会で承認する必要があるのか。

ここに同席している 12 名が 5 回かけて議論したものを、議論の過程を見ていない策定委員会の 15 名が判断するというのはおかしいのではないか。

策定委員会とこの準備委員会の温度差があるところで議論しても仕方ないのではないか。

委員長) 策定委員会のメンバーは村の主だった組織の代表に委員を務めてもらっている。代表の方々は様々な理由で毎回集めるのは難しい。そういったことも加味して、それぞれの団体代表以外の方が組織を代表して、準備委員会にもメンバーとして参加してもらっている。組織を代表して意見を言っていたきたい。

委員 A) と言うことであれば、商工会として会長と話はできているか。

委員 I) 特に話はできていない。

委員 A) 建前は委員長の言う通りかも知れないが、現実にはできていないのが現状である。現実的に事業者にとってメリットのある方法をとっていかねばならないと考える。

そもそもこの委員会の目的とは何なのか。コンサルタントが主導になっている。

ライ) 観光振興計画の策定を目的としている。委員のみなさんから出た意見を計画に盛り込もうとしている。

委員 A) その計画が事業者の営利にどうつながっていくのかわからない。

ライ) みなさんのご意見を頂きながら、向こう 5 年の観光振興計画を作っていく。その観光振興計画を作る中で、みなさんの要望を網羅していくような内容に作り上げていき、事業者のみなさんにとっても有益になるような計画にしたい。

委員 A) そういった計画をこの準備委員会で作ったとしても、上部会である策定委員会が最終的に判断をするのであれば意味がないのではないか。そもそも、策定委員会には自営業をしている人がいないので、事業者の利益の事まで考えられた計画ができるわけがない。環境省の国立公園満喫プロジェクトが失敗の良い例である。

ライ) 今回の観光振興計画は、住民の皆さんと一緒に作っていくことを前提にしている。
また、観光協会の設立についても、この観光振興計画の中で言及することになると
思う。事業者のみなさんにどういう形で利益をもたらすかという、例えば、現状
の渡嘉敷村では、観光協会もない、窓口もない状況であるが、窓口をつくることで、
逃げてしまっていたお客様をしっかりと対応することで、事業者のみなさんにもメリ
ット があるようにしていくことができると考える。
コンサルである私たちが、私たちが考える正解に寄せていく事業ではない。皆さん
と一緒に作っていきたい。
村の観光収入を増やしていく一方で、自然環境を守っていくというのもひとつの大
きなテーマである。観光振興計画の策定においても、そのバランスを取りながら進
めていき、具体的な施策に落とし込んでいく必要がある。

委員 C) ここで議論しているような内容を、上部会である策定委員会の委員の方々が理解し
ているかが疑問である。第1回の策定委員会の議事録を公開してほしい。通例の通
り、我々準備委員会の意見を切られてしまったら元も子もないと思う。誰一人とし
て事業者のオーナーが居ないのは問題と思う。定期的に策定委員会と準備委員会の
メンバーで集まり、お互いの今の意識の差を埋めていかないと、計画を作ったとこ
ろで互換性がないものになってしまう。

委員 D) この準備委員会が発足するときに、本来であれば出席の予定であった副村長が出
席していなかったことが気になっている。副村長の挨拶が無いまま進んでよいのか。
策定委員会と準備委員会の中でも、公募で集まった事業者はたった6名しかいない。

委員 A) ここに出席していない人でも、この様な話し合いに関心のある人は多いはずである。
例えば、委員以外でもオブザーバーというような形での参加は可能か。

委員長) 可能と考える。会議の持ち方についても今一度検討する必要があると考える。前
回の会議の後に、以前にも第1回のようなワークショップをやったというご意見が
出ていた。手法を変えた会議に変えていただかないといけない。

ライ) ご意見を真摯に受け止め、再度仕切り直しをしたい。第1回の委員会では、ビジ
ョンの策定に関するご意見を出して頂いた。昨年度とメンバーも変わったという
ところで、今一度認識合わせをするという意味でビジョン策定のワークショップを実
施した。

委員 A) 策定委員会も定期的にこの準備委員会に来ていただき、意見を交換したい。委員同
士で一同に会して、色々と質問をしたい。

委員長) 策定委員会との中間報告会については実施するように調整を進めていく。そういったことも含め、本来の議論をしてほしい。

委員 F) こういった会議を既に行っているという意見、また、計画が施策に反映していることが見えにくいというご意見を受けた。今回素案を策定委員会に提案し取捨選択をしてもらい、準備委員会の各位にちゃんと報告するという体制をつくるということが重要と思う。

委員 C) エコツーリズム推進協議会のワークショップでも似たようなことを実施した。住民グループとして数値目標および、ルールを守らなかった場合の罰則規定まで作って村に提案したが、何の説明もなく採用されなかった経験がある。今回の委員会ではこういったことが無いようにしていただきたい。

委員 D) これまでの渡嘉敷村では、公の場で議論する機会が少なく、委員 C のような意見が出るが多かった。これからは、正々堂々と議論できるような場づくりが必要と思う。

委員 C) 話は戻ってしまうが、2つの委員会を合わせて30人程度である。2つの会議体が本当に必要なのか。2階建てにする必要は無いのではないか。

委員 A) コンサルタントは、役場にも事業者にも両方にアドバイスできるという立場にある。コンサルタントとして、皆さんがフェアに両方の立場に立っていただきたい。今後、準備委員会および策定委員会を応じ開催できるように調整してほしい。コンサルタントの方に聞きたいが、策定委員会と準備委員会のメンバーに、温度差は感じないか。

ライ) いずれの委員のメンバーのみなさんも熱意をもって議論していると感じる。

委員長) 計画案ができた際には住民の方からパブリックコメントを頂くというようなことも考えている。

委員 A) 計画を策定する際に、住民の意見の総意を反映しないといけないと考える。我々委員だけの意見ではなく、住民全体の意向を反映させるためにも、調査した結果が無いと何も始まらないのではないか。

ライ) 第1回の資料としてお配りしていた。手元に用意するのでご覧いただきたい。

委員 F) 欠席された方にも資料を渡してほしい。

ライ) 昨年度弊社で取り組んだ調査については、データのとりまとめまでは実行した。課題の整理については、これから委員の皆様と行っていきたい。ワークショップの手法とった理由としても、コンサルタントが強引に誘導するのではなく、あくまで委員の方々と一緒に丁寧に進めていきかけたという意図であった。ご理解いただきたい。様々な意見を頂いており、このような状況でビジョンのワードを選んでいくというのは少々難しいと思うので、コーディネーターの石川氏から今後の進め方についてコメントいただきたい。

石川) せっかくの機会なので、本来はビジョンの策定を進めていくということだったが、この時間はこの委員会に対する想いのたけをぶつけていただくという時間にしたと思う。ご意見があれば自由に発言していただきたい。

委員 C) 調査結果の数字の見方については注意が必要と思う。アンケート調査はその時に思ったことに丸を付けただけ…と言うことが往々にしてある。あまり数字に引っ張られる必要は無いと思う。

委員 F) 欠席した委員にも資料を渡すようにしてほしい。同じ資料を元に話さないと議論が前に進まない。

ライ) 承知した。

委員 D) 委員会場で意見が出なくても帰ってから意見を思いつくことがある。次までにどんな意見を持ったかを共有できる場が欲しい。

委員 C) 個人的に考えていたことを文章にまとめていた。連絡先を知っている人にはお渡ししてある資料だが、この会でお配りしたかった。例えば、委員以外の方の意見も吸い上げるシステムを作りたい。メーリングリストを作るなど。

委員 G) ビジョンというのはこれが柱になっていく。ビジョンだけをこの委員会で作って、上部会である策定委員会に見せた時の温度差が怖い。ビジョンづくりだけでも、策定委員会の方に一緒に入ってもらえると、スタートがうまくいくと考える。このビジョンをもとに、色々な枝葉が生えやすいものになっていくと考える。最初のスタート地点を一緒に揃えていくことが大事。

委員 D) 村長は観光立村という言葉を多用している。本来であれば村長の想いを先に聞きたい。

委員 C) 策定委員会を同時に開催できるようにしてほしい。会議体を組みなおした方がいい。
策定委員会のメンバーが積極的に参加すべきであるとする。

委員 H) 策定委員の方こそ会議に参加すべき。もっと全体的に参加できるシステムにしないと意味がないと思う。

委員 G) 策定委員会と準備委員会の共有のタイミングとして、中間報告では遅いと考える。
スタートを揃えていきたい。

委員 D) 今のやり方ではごく限られた人だけの計画書になってしまう。早くビジョンを両方の委員会で作り上げていくことが重要。今のままだと委員だけのところで止まってしまう。住民本位で考えていくべき。

ライ) 現状の会議のスケジュールとして、8月9日には会議を入れていない。理由としては観光業に従事されている方がお忙しい時期に入るからという配慮のもと設定している。

委員 C) 今日出席できるのであれば、8月でも9月でも来られると思う。時間が限られていることも分かっているが、時間を掛ければかけるほど、いいものができると思う。

ライ) 日程調整を進めていく。オブザーバーの参加についても検討する。

委員 D) メーリングリストを早く作って欲しい。

委員 I) 基本的にわたしも商工会でありながら、事務局を運営するという指導員という立場もある。そもそも観光振興計画というのが、私をふくめ、イメージができていない。会議の在り方もそうだが、進め方、内容全体が見えてこない。

委員長) 模索しながらやっているところ。策定委員会の立場、意見もある。準備委員会、策定委員会で合わせながら進めていきたい。お互いに歩み寄りながら進めていきたい。

委員 A) 100%の出席が難しいということも理解できている。ただ、7~8割の方は参加いただけようにしてほしい。その気持ちが大事である。都合は誰にでもある。

委員 D) 私も委員に立候補した際、絶対出席するという前提で申し込んだ。策定委員会の方もそれくらいの気概が無いといいものはできない。

委員 A) 観光協会の立ち上げについては、これとは別に組織を立ち上げるのか。

委員長) 観光協会の立ち上げ自体は本委員会では行わないが、観光振興計画に観光協会の立ち上げについての内容を含めて進めていく。

委員 F) 観光振興計画の内容を観光協会の施策の中に盛り込んでいきたいということか。

委員長) ビジョンを決め方針を決めていく。

委員 F) 観光振興計画として事業者の売上を上げていくということは前提であるので、観光協会の計画づくりが最も重要であると考えます。私は船舶課として、観光客にも住民にも近いところになるので、事業者ではない人の意見も無視はできない。

ライ) 例えば本日視察に行った国頭村では、エコツーリズムを進めていこうということで、ビジョンを作っている。観光協会の事業は、そのビジョンをもとに作っている。実際に施策として実行するのは観光協会が担当する部分が大いだと思う。

委員 D) ビジョンを作るにしても、観光協会の設立と言うのがあって、必要であると書いている。観光協会の設立は村として進めていくことで間違いないか。

委員長) 村として進めていく。ただし、この場合は観光振興計画の策定と言う目的で委員会を持っている。観光協会の設立についても全て網羅した内容の計画を作っていく必要がある。観光協会を作るとなると、渡嘉敷村にとっては大きな組織になると思う。その時には委員のみなさんにもぜひ係わっていただきたい。

委員 A) この観光振興計画は要するに観光協会の設立についての計画ではないのか。その他の内容としては何が考えられるか。

ライ) 昨年度弊社が行った事業については、渡嘉敷村は土産ものが少なく、観光客がお金を落とさないという意見が多くあった。こういった意見に対して、新たな土産物を作っていくということが計画に入っているのも良いと思う。

委員 A) 各事業者の事業計画、売り上げ目標は商工会ではもっているか。

委員 I) 基本的には持っていない。事業者のみなさんの中には、計画を作っているところもあれば、どんぶり勘定的に事業されている方も居る。

委員 A) 経営をしていく上で計画を持っていることは必要。観光客がお金を落とさないという意見があるというが、事業者側の目標値が見えてこない、改善のしようがないのではないかと。たとえば、まぐろジャーキーの売上等のデータもないと、実態が見えてこないと考える。

委員 C) そういったデータについては、追加の調査が必要なのではないかと。

ライ) 昨年度の観光客データはある。

委員 A) 最終目的を達成するために、どういった集客をしどういったお客様のニーズがあるのかを把握することが重要。我々のような事業者は結果を求めている。現状の観光振興計画の議論では、最終目的がぼやけているように感じる。

ライ) 本委員会の目的は観光振興計画の策定である。

委員 A) 観光協会を作るとして、商工会と観光協会の棲み分けはどうするのか。

委員長) 別途調整することになる。

委員 D) 観光協会を作るとして、この計画策定委員会は進めていくということによいか。

ライ) 観光協会についての委員会は別に設置する

委員 F) 手元に国頭村の観光振興基本計画が参考としてあるが、このような計画を作ると言うことは、かなり大変な作業になると考える。

ライ) みなさんの意見を反映しながら調整していきたい。例えば、ご意見を反映させ骨子を作り、それに対してご意見をいただくような方法も検討したい。ここまでの意見を最後にコーディネーターの石川氏にまとめていただきたい。

石川) ビジョン＝なりたい姿である。ご意見の中で、観光客も増やししながら環境は守りたいという、二律背反な意見もあった。このビジョンが村長の掲げる観光立村に沿うような形で進めていきたいという意見があった。

委員のみなさんのご意見を聞いていると、せっかくこの場に集まるのだから、より良い議論がしたいという期待を感じた。その期待に応えるためにも3つアクションをとっていかねばならない。1つは、メーリングリストを整備し、自由に意見を述べ共有できる場をつくる。2つめは、策定委員会と準備委員会が意見を交わす

場として、中間報告の場を作ること。3つめは、欠席した場合についても会議資料を共有し、議論が前進するように準備することである。

委員長) 時間が予定より過ぎてしまったことをお詫びする。前回から議論していたが、目的の基本理念の設定まではたどりつかなかったが、この委員会自体の理想的な持ち方というところまで議論できたことは収穫であった。

できるだけ早い時期に理念、ビジョンの議論ができるよう決定して、観光振興計画を作成していければと思う。次回の開催時期については調整してご連絡する。

また、本日出たような意見があったことについては、上層部にも伝える。

委員 D) 議員にも声をかけてオブザーバーとして参加してほしい。